

平成28年第13回岐阜市教育委員会定例会会議録

1 日 時 平成28年10月26日（水曜日） 午後1時30分から午後4時30分まで

2 場 所 岐阜市役所教育長室

3 出席者 早川教育長、中島委員、足立委員、武藤委員、横山委員

4 説明のために出席した事務局の職員

若山事務局長、原事務局次長兼教育政策課長、
石原教育立市政策審議監、古田学校教育審議監兼学校指導課長、
内堀歴史遺産活用推進審議監兼社会教育課長、高井教育施設課長、
藤村加納幼稚園長、堀学校保健課長、大野岐阜商業高等学校事務長、
吉成図書館長、小森科学館長、大塚歴史博物館長、若山青少年教育課長、
菅沼中央青少年会館長、杉山市民体育課長、河井教育政策課主幹
長谷川教育政策課主幹兼政策係長、松田教育政策課管理係長、
山内学校指導課副主査、後藤教育政策課副主査、杉本教育政策課主任

5 職務のために出席した事務局の職員

波賀野教育政策課主任主事、山岡教育政策課主事

6 議事日程

第1 開会

第2 前回会議録の報告、修正及び承認

第3 会議録署名者の指名

第4 諸般の報告

- (1) 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果及び結果を踏まえた施策の方向性について（教育政策課・学校指導課）
- (2) 第34回市岐商デパートの開催について（岐阜商業高等学校）
- (3) 岐阜市立図書館の開催する主な事業について（図書館）
- (4) 特別展「湧湧展～会派を越えた熱き魂の日本画家たちの挑戦」の開催について（歴史博物館）

※(5) 臨時代理の報告について（教育政策課）

※(6) 臨時代理の報告について（学校指導課）

※(7) 臨時代理の報告について（教育政策課ほか）

第5 議事

- ※(1) 第77号議案 指定管理者の指定に対する教育委員会の意見について（教育政策課ほか）
- ※(2) 第78号議案 岐阜市教育委員会臨時的任用職員及び非常勤嘱託員の任免について（教育政策課ほか）
- ※(3) 第79号議案 岐阜市教育委員会職員の人事について（教育政策課）

7 会議に付した事件

「6 議事日程」のとおり。なお※の報告及び議案は、秘密会形式で審議した。

8 議事の経過

午後1時30分開会開議

○早川教育長 新教育長制度により10月20日から新教育長となりました。任期は3年です。レイマンコントロールが非常に重要となりますので、皆様の活発なご発言をお願い致します。

それでは定刻となりました。本日は川島委員がご欠席ですが、出席者数は定数に達していますので会議が成立しています。ただいまから平成28年第13回教育委員会定例会を開会します。

前回の会議録は前回の出席者により承認されました。本日の会議録の署名者には本日の出席者を指名します。傍聴者はいらっしゃいませんか。

○波賀野教育政策課主任主事 いらっしゃいません。

○早川教育長 議事日程をご覧ください。本日は報告事項が7件、本日机上に配付しております追加議事を1件加えまして、議事が3件となっています。議事日程に秘密会で審議すべき案件が記載されていますが、このとおり扱うことにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○早川教育長 異議なしということでそのように取り扱いをさせていただきます。なお、本日追加の第79号議案につきましては出席する職員を限定して行います。

それでは日程第4の諸般の報告にまいります。報告(1)の「平成28年度全国学力・学習状況調査の結果及び結果を踏まえた施策の方向性」について説明をお願いします。なお、このことについては、頂いたご意見をもとに1月に行われる教育公表会で岐阜市の状況を説明しますのでお願いします。

○古田学校教育審議監兼学校指導課長（平成28年度全国学力・学習状況調査の結果及び結果を踏まえた施策の方向性について説明）

○早川教育長 ご意見、ご質問、ご感想などがあれば活発にご意見いただきたいと思えます。

○中島委員 去年、結果を見た時は夢や志に関係する項目が最下位でした。順位が上がってきているということは、先生方や地域の方のおかげで、子どもたちに少しずつでも夢を与えることが出来ているのかと思います。順位が急に上がるのは逆に怖いものがあるので、徐々に活動が浸透していけば良いと思います。これからも夢のある子どもたちを育てていただきたく思います。

○武藤委員 先ほどのデータを見ると、基礎よりも応用の方が良くできていますが、どういう状態なのでしょう。基礎が出来ると応用が出来るとなると思うのですが、どうして基礎よりも応用の方が出来ているのか教えてください。

○古田学校教育審議監兼学校指導課長 この全国学力・学習状況調査が始まってから一貫して岐阜市も岐阜県もA問題よりB問題の正答率の順位が高くなる傾向があります。岐阜市・岐阜県は昔から課題解決型の学習を重視しております。例えば国語で言うと、教師が教え込んでひたすら漢字を書いたりさせるよりも、文章を読み取ってどんな気持ちなのかを考えさせる学習を中心にやってきましたので、全国と比べると思考の部分は良いのですが、逆に反復練習が足りていないのでA問題の定着が全国に比べると弱いと思います。武藤委員が仰られたように、基礎が無いと、ある程度活用・応用が出来ないのですが、岐阜市・岐阜県ではこのような結果となっていますが、詳細は掘めていない状況です。

○武藤委員 話を聞いて、私が単純にA問題とB問題を比較してしまったことが良くなかったと思いました。応用が利くということは学力だけではなくて、生きる力全般に繋がる話なので、いい傾向だと思います。そこは大事にさせていただきながら、基礎的なところもお願いします。

基礎が出来ていない原因が、例えば子どものテストによくあるパターンで、計算

や書き取り等のケアレスミスが多いからだとする、集中力や注意力の問題なのかなとも考えられます。様々な原因があると思うので、可能な限り分析をして活かしていただきたく思います。

○足立委員 「物事を最後までやり遂げる」ことの順位が低いという話でしたが、中学校では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた割合が92.9%ということで、順位は下の方だともいえますが、高い割合です。順位だけで話をしていると間違っただけの解釈をするかと思えます。あまり気にすることないと感じたものの一つでしたので、全体をよく見ていただきたく思います。

○早川教育長 我々はそういう見方もするのですが、順位にすると毎回最下位ということも間違いないので、注視しているところです。

○横山委員 私も順位に一喜一憂する必要はあまり無いと思います。基本的なことですが、「学校へ積極的にいきたい」ということが少ない点は何か問題があるのではないかと思います。1年の内で最も活動する場へ行くことに気が進まないということは、勉強ができる・できないと関係なく、良い傾向ではないと思います。

○早川教育長 学力に関する点数だけの話ですが、その年によって出来が良くなったり悪くなったりという傾向がありまして、校長にも学力向上をやっていかねばいけないという気持ちを持っていただかないといけないと思います。

○横山委員 学力の順位で一喜一憂する必要はないと思いますが、日本全国が学習指導要領に則って、ちゃんと採用された教員が教えているわけですね。その点では均一的な教育が行われているはずなのに、そこに差が出るのは、子どもが基盤を形成する部分、家庭教育や地域の教育力が一つあると思います。

もう一つは当たり前のことですが教員の指導力です。授業をどれだけ工夫・改善しているかだと思います。そこをテコ入れしていけば、順位はともかくとして、きっちりしたものができると思います。

○早川教育長 横山委員に言っていただけましたので、後半の論議に入りたいと思います。

今のパッションやスキルの点で、ちょっと弱点があるのではないかという子どもたちに対して、これから教育委員会が施策として考えていることを提案させていただきますので、ご意見をいただきたく思います。横山委員のお話にあった社会の教育力をいかに子どもたちに活用していくかということです。

子ども自身に、なぜこういう結果なのかを、本荘中学校と東長良中学校の生徒たちと一緒にグループワークをして聞いてみました。彼ら曰く、「塾は強制的に学ばされる。週に3回から6回、夜7時から10時まで。宿題は塾から帰ってからやるという状況なので成績は上がる。パッションが少ない理由は岐阜という土地が住みやす過ぎる。都会的なものが近くにあるわけでもないが、不便でもない。すべてが程度よく揃っているので、パッションを示す場面がない。」と自己分析していました。

しかし、これから説明しますが、大人から様々な話を聞いたりするということは大いにパッションの源になると話していたので、その話をしていきます。

○杉本教育政策課主任（アクティブシニアの活用・生涯学習中核的拠点について説明）

○早川教育長 まだ作り上げている最中なので、ブレインストーミングでお願いします。ご感想や問題点等がありましたら伺えるかと思えます。いかがでしょうか。

○中島委員 今、私たちの活動は高齢者の方々との関わりが多いのですが、地域活動をしてくださる方がどんどん減っています。一方で、シルバー人材として登録される方は増えています。なぜかという、自分の活動から一定のお金が入ってくることに生き甲斐を感じるからです。

しかし、ボランティアとなると本当に集まりません。しかも今は女性の活躍ということで、お勤めを継続されている方が増え、パートを選ぶ方も少なくなってきていて時間に余裕がありません。40代、50代の若い世代も働いていて、なかなか地域活動をしてもらえない現実があります。

この提案はとても素敵なのですが、活動に対しての報酬がなく、まったくのボランティアでやっていただくとなると、参加していただける方の年代が上がってしまうように思います。そのことに生き甲斐を感じていただけるような年代の方にはやっていただけるかと思うのですが、孫に何か買ってあげたいとか、お友達とランチに行きたいというような世代の方々だと、ボランティアに足を一歩踏み出すことは難しい現状があります。

それから、こうした活動の場合、自己満足で終わってしまう方がすごく多いので、教え方を学ぶ場が大事だと思います。相手は子どもたちなので、子どもへの伝え方や学校の中に入っていただくことの大切さをきちんと学んでいただいて、修了書もらった方が学校に出ていただけると、保護者としても安心ですし、子どもたちとの関わりも深めていただけるので良いと思います。

○早川教育長 どのようにボランティアを呼びかけていらっしゃるのですか。

○中島委員 チラシや広報に載せていますが、参画率は段々と減ってきています。

○早川教育長 高齢者というと、65歳以上なら可能性はありますか。

○中島委員 65歳はまだまだお元気です。

○横山委員 今のご意見に関連するかもしれませんが、インセンティブを高める為に、お金よりも肩書きを持っていただくのが良いと思います。誰でも良いというわけではないので、ちゃんと認定した人に対して何らかの肩書きを与えることによって、意欲を掻き立てる環境を作ることが大切です。

○早川教育長 文部科学省も地域活性化伝道師というものをやっていますね。名刺に書かれています。

○横山委員 カッコいい肩書きがあると、高齢者が気合いを入れてやれる雰囲気ができるのではないのでしょうか。

○早川教育長 それはお金もかかりませんし面白い話ですね。

○横山委員 そうです。お金をかけずにやる気を持ってもらえます。それと私がさっき言ったことと繋がったと思うのですが、地域の教育力を上げるということで、方向性としては非常にいい事だと思います。私が子どもの時にもおじいちゃんやおばあちゃんに教えてもらったことは今でも覚えていますし、非常にいい教育機会だったと思います。そこで夢を持ったりすることができる子どもが育っていくと思います。この方向性というのは、地域で子どもの基盤を作っていくということで非常にいいと思いますが、あえて言うなら、教育は学校教育というものがあってのものだと思います。この提案は教育施策の主にはならなくて従だと思います。子どもは学校で学ぶため、教師の教育力というものがあって、そこから関連する部分としてこういったところが補強されることで、併せて力がついてくると思います。この方向性には非常に賛成です。

○早川教育長 もうひとつの観点として、生涯学習として長良川大学やくるるセミナーなどに行って学んでいらっしゃる方が多いのですが、そういう人たちの発表の場がなく、社会貢献したくとも行き場がないので、活用場として子どもたちを対象にすることは良い発想だと思います。

○**横山委員** 自分たちが学んだ学習の成果を活かす先がここだということはターゲットとして非常に良いと思います。

○**早川教育長** それを例えばコミュニティスクールと中核的拠点の2段階で考えるということについてはどう思いますか。

○**横山委員** 私は中核的拠点についてイメージが掴みきれいていません。

○**早川教育長** 例えば、着物の着付けとか論語を教えるとか、いくつかブースを設けて、子どもたちがそこへ社会見学というかたちで通って2、3個経験して面白いと思えるような、きっかけ作りの場を設けたいと思います。

今度、教育委員会の視察で、大阪で行われる「ミニフューチャーシティ」を見に行きますが、岐阜市教育創造会議の委員をお願いしている京都大学総合博物館の塩瀬准教授という方が関わっていらっしやって、子どもたち自身が町を作って、その町の中で様々な職業・商売を始めて、そこで子どもたちが学んでいくというものです。これも候補のひとつかとは思いますが、キッズニアのようにお金をかけるものもあります。もっと岐阜市が岐阜市らしく継続的にやっていける、みなさんの善意を基にしてやれることは、あまりお金をかけない仕組みかと思えます。そのヒントを得るため、今度みなさんに大阪へ行っていただくということです。

他にこの仕組み作りについて、今の時点で何かアドバイスはありますか。武藤委員いかがですか。

○**武藤委員** 私も基本的な方向性には賛成なのですが、自己満足になってしまうのではないかという指摘が気になります。横山委員が仰ったように、学校が主で、それを補うものがこれだという考えだとすると、学校教育の中で、この部分は地域の方で補いたいからこの人を呼んでくるとか、位置付けをはっきりさせた上で、地域の方をお願いする必要があります。学校はその人と事前に打ち合わせして、こういう狙いでこういうことをやって欲しいということを理解してもらった上でやっていただかないと、単なる発表で「よかったね」だけで終わってしまうのではないかと思います。

学校から「キャリア教育として仕事の話をしてください」という話が私に来るとき、内容は「なんでも好きにしゃべってください」と仰るところが結構あります。私は「それならしゃべりたいことをしゃべります」と伝えて、子どもたちにマイナスにならない話をしますが、学校としてはなぜ私を呼んだのか、他の職業の方を呼んだのか、そこは意図があってしかるべきものだと思います。是非「こういう観点

で話をして欲しい」「こういうところは外さないで欲しい」といった点はもう少し言っていた方がいいのではないかと思います。その話と同じようなことにならないかを危惧しています。やるとしても、学校がちゃんと打ち合わせをして実行する体制が、この枠の中に組み込めるようにしていただく必要があると思います。

○早川教育長 分かりました。足立先生いかがですか。

○足立委員 地域の人材を発掘するにあたって、自治会や老人会など様々な団体があります。図書館長はよく様々な地域の方々をピックアップして様々な会を開いていらっしゃるんですが、アンテナを広げて地域の人材をピックアップすることが必要ですし、他人の為にはできなくても、孫の為といったきっかけがあれば動いていただきやすいですので、色々考えていかれるといいと思います。

あと、私たちは教える立場なのでしょうけれども、スキルを持っていません。子どもたちに教えるためのスキルを学んでいただく場ということで、みなさんにプレゼンテーションすることを学んでいただかなければならないのですが、私たちの世代は特にそういうことを勉強しないでできてしまっ、今勉強したいと思って後悔しているような年代ですので、教えていただきながら是非活用していただきたいと思っています。

○中島委員 先ほど横山委員が仰った地域力や家庭教育力という点について、今私たちもその現場にいるので、今の母親たちの家庭教育力が下がってきているという点は実感しています。困窮等の様々な問題があるのですが、それも補えるような、母親たちが学ぶ場を作っていただけると、母親も地域の人になっていくので良いと思います。

私たちのNPOでは、BPプログラム（Baby Program）やNPプログラム（Nobody's Perfect Program）を岐阜市で初めてやらせていただいています。新潟県など子どもを産んだら必ず受けるという県もあります。今、離婚率が上がってきている原因の一つが産後うつと言われているのですが、そういったお母さんの産後うつを軽減するという意味でも、学びたい人はたくさんいます。ただ、学ぶ場が無いということがあります。せっかく新しい場が出来るので、義務教育に入る前の初歩段階のお母さんや子どもたちを育てる場も作っていただけると、ゆくゆくは地域の人として育っていくと思います。

○早川教育長 大変参考になりました。各学校で人材バンクを持っているのですが、なかなか活用されていないということがあられるようです。中島委員が仰ったようにボランティアに来る人が少ないという意見もありますし、場を与えさえすれば協力し

てもらえるという意見もあって、我々もいずれかの時点で調査をしたいと思っています。

それから、武藤委員の仰った学校の主体性に関することと、もう一方でスキルをきちんと身につけた上で参画していただくということがあります。意図をきちんと持って子どもたちに分かりやすくしないと、シニアの方に来ていただいても子どもたちが聞いていない状態で終わるようだと困ります。

もうひとつ不思議に思ったことですが、子どもたちは、学校以外の人が来たり、職場体験したりすることは非常に面白いと言うのです。何が面白いのか子どもに聞いたら、自分がその仕事をしたいとは思っていないが、商品を並べることの裏に多くの作業があることを知って驚いたということでした。一つのことをやるのに多くのバックヤードがあることを知って非常に感激しています。そうした意味でたくさん聞きたいという気持ちがあったことには驚きましたから、学校が主導権を持ちつつ、いかに学校と社会をリンクさせるか考えていきます。

また、先進地視察の「ミニフューチャーシティ」もヒントになると思いますし、来年の8月3日、4日に全国コミュニティスクール協議会が岐阜で行われます。その時に、今まで生涯学習の観点からコミュニティスクールを考えることがあまりなかったのも、その辺りも含めて協議会で議論して、何か子どもたちの中核的拠点とコミュニティスクールの両方あいまったものが作り上げていけないか、またご提案させていただきます。

なお、このことは今度の総合教育会議の後半にお話します。子どもたちが色々な人と接し会えるように学校へ呼んで、そこで話していただくことで、子どもたちのパッションに繋がるという考え方が主にあります。また教育委員会でも議論をお願いしたいと思います。大変参考になりました。

それでは諸般の報告(2)「第34回市岐商デパートの開催」についてお願いします。

○大野岐阜商業高等学校事務長（第34回市岐商デパートの開催について説明）

○早川教育長 続きまして図書館から報告をお願いします。

○吉成図書館長（岐阜市立図書館の開催する主な事業について説明）

- ・えほんフェスティバル
- ・本と映画をめぐる金曜トークショー
- ・カンチャョーと行こう！ぶらり ぎふまちライブラリー
- ・人権イベント

○早川教育長 続いて歴史博物館の報告をお願いします。

○大塚歴史博物館長（特別展「湧湧展～会派を越えた熱き魂の日本画家たちの挑戦～」の開催について説明）

○早川教育長 リスボン出張についての報告は宜しいでしょうか。

○若山事務局長（リスボンにおける、来年度開催予定の信長展の資料収集の交渉について説明）

○足立委員 先日、歴史博物館へ行ってきました。展覧会を行うと大勢の観客がいらっしゃると思います。トイレは身障者用が洋式ですが、その他は和式トイレが多いですね。

○大塚歴史博物館長 各階の女性用トイレについて、それぞれ4基ございまして、内1基が洋式となっています。

○中島委員 高齢者の方は、和式トイレだと辛いと言われますね。

○足立委員 歴史博物館へ行かれる方は高齢者の方が多いですね。

○早川教育長 来年大きな展覧会をやるから考えないといけません。

○足立委員 その辺は予算をつけてなんとかしていただきたいです。

○早川教育長 変えるチャンスですね。

○中島委員 本当です。変えるチャンスです。

○足立委員 間に合わせられたらお願いしたいです。

○武藤委員 私ども弁護士会のトイレもその問題に直面して、全てではありませんが今年和式から洋式に変えました。想定以上にお金がかかって会の中で理解をいただくのが大変でした。ただ、必要性があるのは明らかなので、その辺をしっかりと説明して、各地から来た方がそういうところで困ったりしないように整えていただきたいです。

○**中島委員** 駐車場も問題ですね。

○**早川教育長** 展覧会は8月でしたか。

○**若山事務局長** 7月から8月です。

○**早川教育長** 他に今、市岐商、図書館、歴史博物館から報告がありましたが、ご意見、ご質問はございませんか。

○**中島委員** 図書館の人権のチラシですが、こちらは既に配布されていますか。これからですか。

○**吉成図書館長** これからだと思います。

○**中島委員** 文字が切れています。

○**吉成図書館長** 失礼しました。

○**中島委員** 図書館なので、言葉を大事にして欲しいと思います。「11月1日（火）より」の後の、岐阜の「岐」だけが出ています。目に入る単語は大事だと思うので直していただきたく思います。あとはイライラの「イ」だけ段落が違います。

○**吉成図書館長** 最後に直っているかどうか確認します。

○**中島委員** 是非、見て校正してください。

○**武藤委員** 市岐商デパートのチラシですが、先ほど公共交通機関で来てほしいという話があったのですが、地図を見ても実際何で行けばいいのかがよく分らなかったということが率直な感想です。限られたスペースでそこまで網羅するのは難しいと思うので無理にとはいませんが、案内してあげるとそっちへ誘導しやすいと思いました。

○**大野岐阜商業高等学校事務長** ご指摘いただいた通りです。ポスターが出来てからバス停等の記載がないことに気づきました。ホームページにはバス停の案内を入れさせていただきました。来年のポスター作りの参考にさせていただきます。

○早川教育長 必ず改善してください。

○大野岐阜商業高等学校事務長 はい。

○中島委員 市岐商ですが、ポスターのキャラクター等を書いたのは生徒ですか。

○大野岐阜商業高等学校事務長 ポスターの下の方に小さく書いてある名前ですが、電卓の絵は卒業生の作ったキャラクターです。ポスターのデザインは在校生が原案を作って、印刷屋さんで修正していただいて、このポスターになりました。

○中島委員 そういうことも分かるように書いてもらえると、子どものやりがいに繋がるかと思えます。名前をみただけでは、生徒なのか専門の方なのか分からないので、表記されていると親も嬉しいかと思えます。

○早川教育長 今の話だと、那須さんは現役で、岩津さんは卒業生ですか。

○中島委員 そのように名前の横に括弧で書いておいてはどうでしょうか。来年からお願いします。

○武藤委員 今のデザインの件ですが、この子たちはそういう才能があり、部活で活動している等の理由でポスター作成に携わったのですか。

○大野岐阜商業高等学校事務長 那須君は部活で剣道をやっています。在校生でポスターデザインを応募して、選考されて印刷屋でこのポスターになりました。

○武藤委員 部活動で格別活躍していたら、そういうことも書いてあげると学校のPRにも繋がるかと思ひ聞きました。中島委員の仰ったように、やりがいの部分で生徒が書いたところが分かるようになっていけばいいかと思ひます。

○早川教育長 各館・学校で盛り上がるよう、お願いします。

それでは以降の報告及び議事は秘密会で進行します。報告(5)について説明をお願いします。

(削除)

○早川教育長 本日の議事はこれで終了です。次回は11月16日水曜日の午後1時30分

から、場所は境川中学校で開催しますので宜しくお願いします。以上で本日の会議は終了致します。ありがとうございました。

午後4時30分 会議終了